小児科として関わった児童虐待例

村田祐二

はじめに

児童虐待の防止等に関する法律が平成12年11月に施行され、虐待に対する関心が高まっている一方、悲惨な事例がしばしば新聞紙面を賑わしている。当院で経験した虐待の典型例を提示するとともに、過去小児科で関わった虐待事例をまとめてみた。

症 例

7歳男児。母親からの身体的虐待を受け、保護観察入院のため、平成13年11月21日児童相談所から紹介となった。図に示すように顔面の皮下血腫を認め、他に左腰部にも同様の所見を認めた。頭

蓋内出血はなく、他に骨折はなかった。家族背景として、母は実家との折り合いが悪く精神的に不安定で、数か所の精神科から投薬を受けていた。初診時は朦朧状態であった。父はトラックの運転手で家を空けがちなうえ、他に援助を受けられる親戚等はなかった。結局児は母子分離のため、児童相談所に入所となった。

過去の症例のまとめ

平成10年から12年までの3年間に15例の虐待事例に関わった(表)。受診動機としては、学校や児童相談所からの紹介が多かったが、意識障害や心肺停止という重篤な状態で救急搬送される症例もあり、より初期の段階での対応が重要と思わ



図. 症例の顔写真

受診日	名前	年齢	性	分類	病名	受診動機	背景
1998. 6. 3	I.N.	11 y	F	身体的虐待	打撲	学校から直接	母が失踪
1998. 9.30	S.T.	12 y	М	身体的虐待	小腸血腫	不定愁訴	父子家庭
1998.11.28	I.Y.	5 y	Μ	身体的虐待	硬膜下血腫 (死亡)	意識障害	
1999. 5.26	T.T.	3 у	M	身体的虐待	頭部打撲	児童相談所から	
1999. 5.26	T.K.	4 y	М	身体的虐待?	?	T.T. の兄	
1999. 6.20	O.R.	0 y8 m	F	身体的虐待	頭蓋内出血? (死亡)	心肺停止	
1999. 7. 8	K.R.	0 y5 m	F	身体的虐待	頭蓋内出血	痙攣	
1999. 8.14	M.M.	5 y	F	身体的虐待	絞扼痕,皮膚外傷,贏瘦	児童相談所から	母と失踪
1999.10.23	S.H.	0 y6 m	F	身体的虐待	頭部皮下出血	外傷で受診	酔ってなぐる
1999.12.18	H.T.	4 y	F	身体的虐待	皮下出血,擦過傷	痙攣,児相から	
2000. 1.23	K.A.	2 y	F	身体的虐待	皮下出血	児童相談所から	母と失踪
2000. 2.18	S.M.	0 y5 m	F	身体的虐待	硬膜下血腫 (死亡)	急にぐったり	
2000. 2.29	K.A.	14 y	F	性的虐待	外陰部の外傷	養護教諭から	
2000. 9.13	A.K.	2 y	Μ	身体的虐待	打撲	熱性痙攣	
2000.11.28	S.Y.	7 y	Μ	身体的虐待	打撲	手足の痺れ	

表. 過去の症例のまとめ

れた。背景として複雑な家庭環境の症例が多く,虐待者も救いを求めている場合が少なくないことに配慮する必要がある。

虐待を見逃さないポイント

- ○まず疑うこと。ひどい傷なのに受診が遅れる。親 の説明では発生するはずがない傷(転んで内股 をぶつけるなど)などの時。
- ○主訴の傷以外に新旧多数の外傷がないか。(強く

疑うときは全身のレントゲンをとる)

- ○同じ子どもが以前にも外傷で救急外来を受診するか,兄弟が突然死,または同様の外傷で受診している。
- ○不潔で,季節にそぐわない服装をしている。
- ○子供が無表情で警戒し、じっと人の顔をみる。 このような症例に出会ったら決して一人で抱え 込まず、ケースワーカーや児童相談所に速やかに 連絡を取ることが大切である!